

[成果情報名] 「南高」に適した優良台木の探索

[要約] 「スモモウメ1号」、「スモモウメ2号」は耐水性が強く、適湿および乾燥条件下では、「西洋梅」、「二青梅」の生育が優れる。「甘肅桃」は「南高」の台木に適さない。幼木期の「南高」樹において、樹体生育では「地蔵」台、収量性では「西洋梅」台が優れる。

[キーワード] ウメ、台木、強勢、耐乾燥性、耐水性

[担当機関名] 果樹試験場うめ研究所

[連絡先] 0739-74-3780

[部会名] 果樹

[分類] 研究

[背景・ねらい]

ウメの台木は一般に共台が用いられているが、安定生産のためには「南高」に適した強勢台木や乾燥ストレス耐性、耐水性の強い優良台木の育成求められている。そこで、ウメ実生や挿し木台樹におけるストレス耐性と生育、また、実生台「南高」の樹体生育、収量性や果実形質を比較検討し、「南高」に適した優良台木を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 「スモモウメ1号」、「スモモウメ2号」は、20日間湛水状態においても葉に傷害を示さないことから、これらの品種は耐水性が強い（図1）。
2. 適湿および乾燥条件下では、「西洋梅」、「二青梅」の生育が優れる（図2）。
3. 「甘肅桃」の挿し木台を用いた「南高」樹は、乾燥ストレスを受けにくい（データ省略）、樹体生育が劣るため（図3）、「甘肅桃」は「南高」の台木に適さない。
4. 台木の異なる「南高」樹について、幼木期の樹体生育では「地蔵」台、収量性では「西洋梅」台が優れる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 土壌条件別に台木を使い分けることで、樹勢低下の要因を減らすことができ、安定生産の一助となる。
2. 「南高」に適した優良台木探索のための基礎資料とする。
3. 今後、台木の異なる「南高」樹において、成木期の樹体生育、収量性、果実品質、加工性、安定生産性を継続して調査し、有望台木の検討を行う必要がある。

[具体的データ]

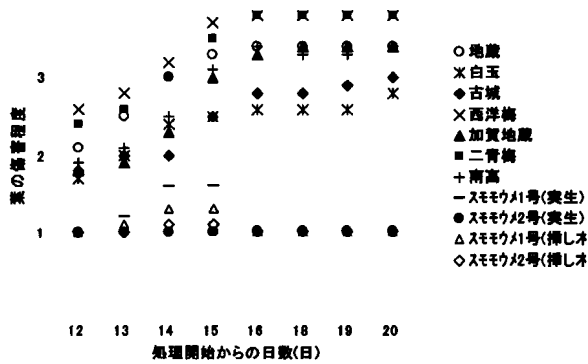


図1 ウメ実生および挿し木苗木の品種の違いと耐水性

注) 直径15cm、高さ70cmの塩ビ製ポット植え実生
1999年9月13日から22日間、株元まで灌水処理
葉の傷害程度は、1：被害なし、2：葉の萎凋、
3：葉の褐変、4：落葉

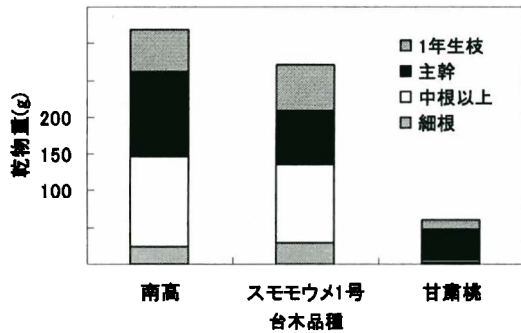


図3 「南高」の台木品種の違いと乾物重

注) 80リットルポット植え1年生「南高」
台木は挿し木台
2002年7月29日解体調査

表1 台木品種の異なる「南高」の樹体生育と収量

	幹周(cm)		徒長枝本数(本/m ²)		収量(kg)		
小粒南高台	5.1 (100)	48.7 a(963a)	19.9 a	9.1 a	2.5 a	11.2 ab	15.0 a
二青梅台	4.0 (100)	44.1 a(1107a)	14.8 b	8.8 ab	2.8 a	7.0 a	12.8 a
西洋梅台	5.2 (100)	50.3 a(962a)	18.6 ab	9.1 a	1.7 a	9.0 ab	13.1 a
南高台	4.8 (100)	46.0 a(953a)	16.4 b	6.0 b	5.3 b	13.4 b	22.5 b
南高台	-(-)	48.7 (-)	-	7.8	-	8.4	

注) 露地植栽、2005年に9年生樹、台木は実生台木
南高台樹は2004年から樹変更のため2005年のみ記載
()内は定植時(1997)の幹周を100とした肥大指数
徒長枝本数は樹冠占有面積 (m²) あたりの50cm以上の新梢本数
総収量は初成り(2000)から2005年までの合計
異符号間で有意差あり(最小有意作法による)

[その他]

研究課題名：優良台木の探索と育成

予算区分：県単

研究担当者：根来圭一、林恭平

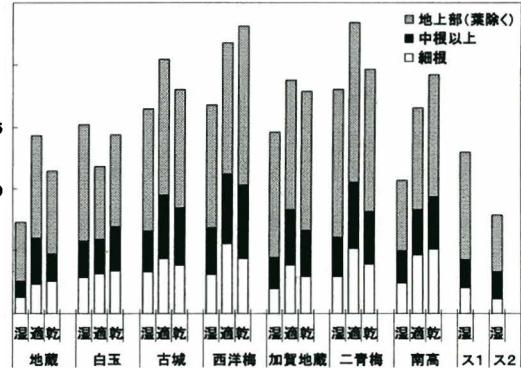


図2 ウメ実生の秋季の土壌水分と乾物重

注) 直径15cm、高さ70cmの塩ビ製ポット植え実生
湿：灌水処理
1999年9月13日から22日間、株元まで灌水処理
適：適湿処理
1999年9月21日から28日間、pF2.0~2.7
乾：乾燥処理
1999年9月25日から24日間、pF3.0~3.8
ス1：スモウメ1号、ス2：スモウメ2号
1999年10月19日から23日に解体調査

研究期間：平成11~18年

論文発表等：